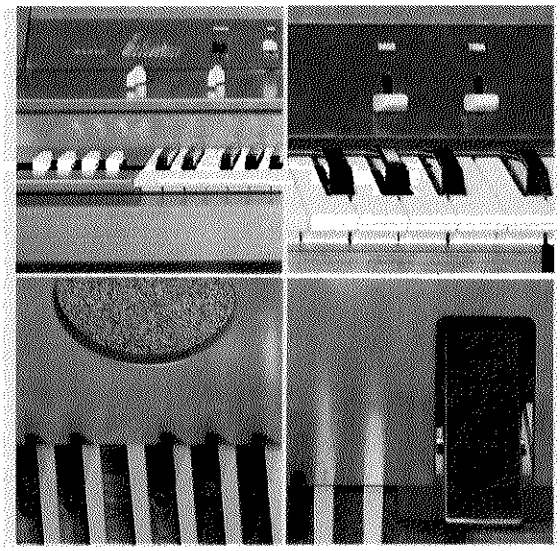
ヤマハエレクトーン D-1Bの手引



ヤマハエレクトーンD-1Bのごあんない

テレビやステージですっかり人気を集めている現代の楽器エレクトーン。そのエレクトーンの、もっともオーソドックスなものがこのD—1 B型です。

●エレクトーンはその名の通り電子の楽器です。現代の魔術師トランジスターによって生まれました。世界最大の楽器会社ヤマハが独自の研究によって開発したもので、日本はもちろん世界最初のトランジスターによる電子楽器として脚光を浴びているわけです。

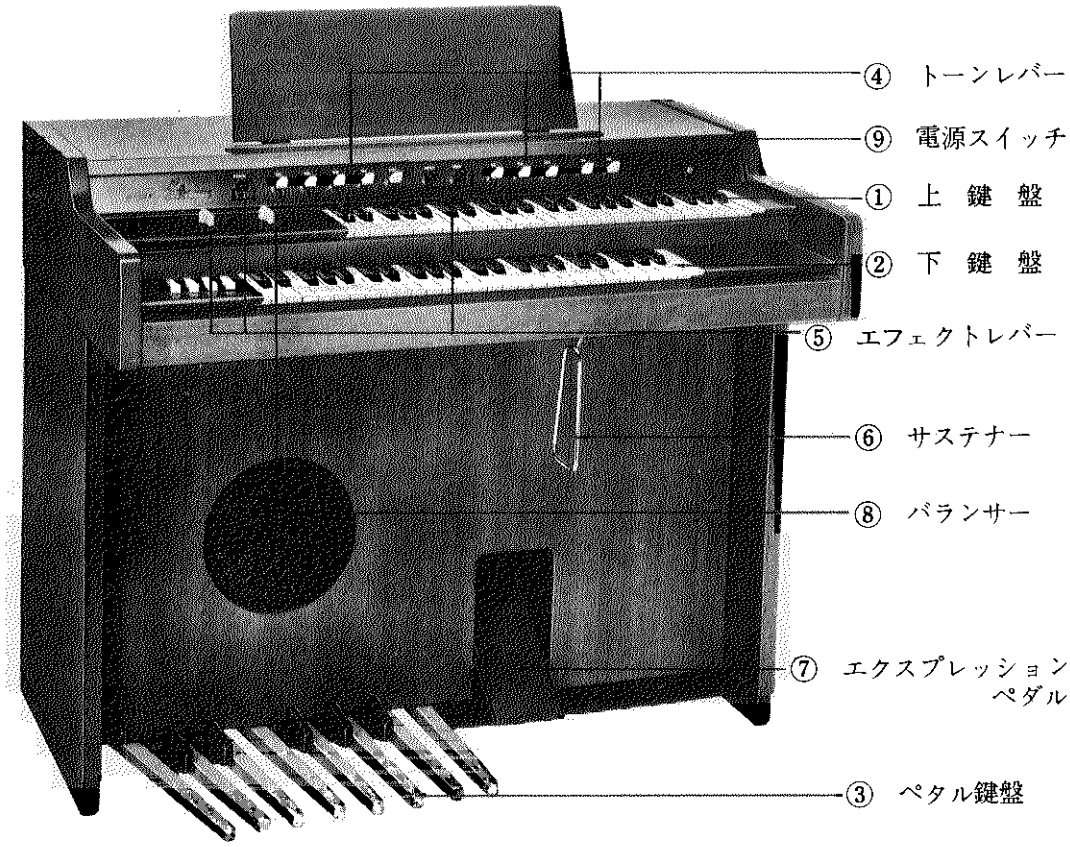
●エレクトーンのなによりの特長は、たった一台でいろいろな音色が出せることです。そしてまた、一台で合奏の効果の楽しめるのがすばらしい魅力。「合唱する新しい楽器」と別名をつけられたのもこのためです。そのほか残響効果、凝音効果などこれまでの「楽器」のイメージを変えてしまうほど、変化の楽しめる楽器、それがエレクトーンなのです。

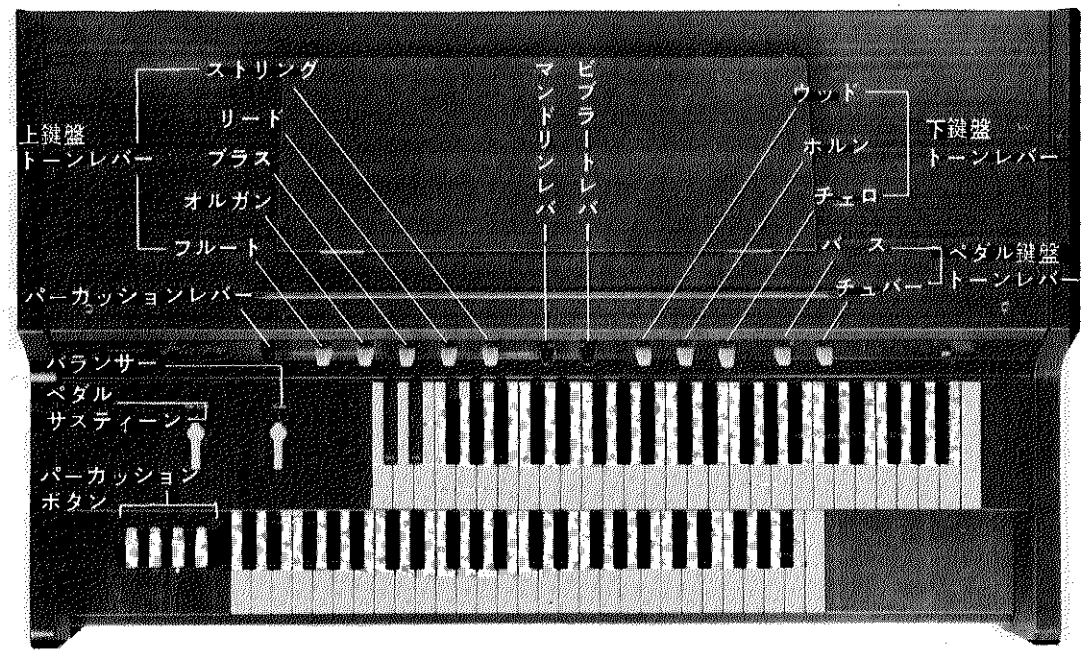
●エレクトーンのもうひとつの魅力は、演奏がかんたんなことでしょう。いわゆる「さぐり弾き」で楽しめるので、これまで楽器を敬遠しがちだった方々にも親しまれ始めました。音楽を、「聞く楽しさ」から本来の「弾く楽しさ」に戻した楽器、それがエレクトーンです。

ソロはもちろん、アンサンブルに適しており、レパートリーもクラシックからジャズに至るまで、極めて巾のひろいのもエレクトーンならではの特長です。

●エレクトーンは形がオルガンに似ていますが、リードによって音を奏でるオルガンとは違って電子回路による発振で「創り」ます。そのため音程は極めて安定して狂いません。消費電力も極くわずかで、故障が少ないなどかずかずの特長を持っています。

エレクトーンD-1B型外観と各部の説明





鍵　盤　①②③

① 上　鍵　盤 (Upper Manual 主に右手でメロディーパート
② 下　鍵　盤 (Lower Manual 主に左手で伴奏パート)
③ ペダル鍵盤 (Pedal 左足でベースパート)
上下鍵盤とも音域は4オクターブ49鍵で、位置を1オクターブずらしてあります。
ペダル鍵盤は1オクターブ13鍵で、記譜より実音は1オクターブ低い音がでます。
全音域は6オクターブで大変に広い音域を持っています。

トーンレバー　④

フルート(Flute)、オルガン(Organ)、ブラス(Brass)，リード(Reed)，ストリング(String)以上は上鍵盤に作用します。ウッド(Wood)，ホルン(Horn)，チェロ(Cello)以上は下鍵盤に作用します。バス(Bass)，チューバ(Tuba)以上はペダル鍵盤に作用します。これらは音色を決めるばかりではなく、一種の音量調節レバーで、書かれた楽器の音が出るのではなく、倍音の組合わせがそれぞれの音に近く作られているのです。
上に書れた楽器名は左にゆくにつれて，にごった感じの音になっています。

エフェクトレバー　⑤

ビブラートレバー(Viblato)音にうるおいをつけるもので、上、下、足鍵盤に有効です。
マンドリンレバー(Mandolin)　マンドリン効果をつけるもので上鍵盤に有効、onまたはoff。
ペダルサスティン(Pedal Sustain)ペダルに残響効果をつけるものでペダル鍵盤に有効です。onまたはoff。
パーカッションレバー(Percussion)特殊効果を出すパーカッションボタンに有効です。

サステナー　⑥

右ヒザで操作し右に押すと残響効果を出すもので上鍵盤に有効です。

エクスプレッションペダル ⑦

右足で操作し全体の音量を調節します。踏み込めば音が大きく、戻せば小さくなります。

バランサー　⑧

上下鍵盤のバランスをとり、つまみの点が右に廻すにつれて上鍵盤が大きくなります。

電源スイッチ　⑨

「交互式」になっており、スイッチが入った時はパイロットランプがつきます。

よい演奏はよい姿勢から（演奏入門）

1. 演奏の姿勢

すべて、楽器の演奏は基本の姿勢が大切です。最初によくマスターなさって、すばらしい演奏をお楽しみ下さい。

1)楽器の中心に座ります（$\dot{c}$、$\dot{d}$）、椅子の前半分位の位置でらくな姿勢です。からだの重心は少し右側により、左足がらくに動かせるようにして下さい。

2)主に右手は上鍵盤（メロディーパート）
　左手は下鍵盤（伴奏パート）
　左足はペダル鍵盤（ベース、パート）を演奏します。
それぞれの鍵盤全音域にとどくように確かめて下さい。

3)左足は力を入れずに下脚が左、右にらくに動き、足首は力をぬき、つま先が黒鍵の手前を軽く押すように演奏します。

4)右足はエクスプレッションペダルにのせます。足首の力をぬき足底全面がペダルに密着するように、そして一杯に踏み込んだ時と上げた時とのその間の動作がすべてらくに動かなければいけません。

からだが固くなっているとよい演奏ができません。バランスがとれないからです。そういうときは音もぎこちなく聞えます。無理のない自然の姿勢で演奏しましょう。

(4)
(2)
(3)
(1)

2. マニュアル・キー（手鍵盤）の弾き方

1)ふつう手の形は、一度にぎった手を軽くひろげ指を立てた状態にします。この形は指を早く動かすためにも必要で、あらゆる有鍵楽器に共通の模範的な形です。

2)美しくエレクトーンを弾くには、正しい指使いをしなければなりません。エレクトーンはピアノと違い、指を離した瞬間に音が切れてしまいます。ですからレガートに弾くには、次に弾く音（鍵盤）の上に指が用意される必要があります。

- 原則として2度は隣の指で、
- 5度以内は5指を有効に、
- 5度以上の順次進行は音階の指使いで、
- 指の拡大はなるべく1-2,1-4,1-5　指の間で、
- 黒鍵はなるべく長い指で（2,3,4指）

もちろん曲により例外もたくさんありますが、ひと口にいえば合理的な指使いが必要なわけです。

A）レ　ガ　ー　ト

1)スラー（⌒）のついているフレーズや、なにも書いてない場合（メロディーパート）は原則としてレガートに弾きます。

2)始めから終りまで全部レガートに弾いては、かえってその効果が少なくなります。
フレーズの切れ目で、ちょっとブレス（息つぎ）が必要です。
それがレガートをより一そう効果的にします。なぜなら、それが自然な音楽なのですから。

3)鍵盤が軽いからといって軽く鍵(キー)を押えますと、かえってレガートになりにくいのです。形を正しくしっかりと弾きましょう。

4)指使いが難かしくレガートになりにくい所や、早いパッセージなどで指がうまく動かない時は、半音上げるか、半音下げるか、移調して（黒鍵の多く出てくる調え）練習しますと効果があります。

5)重音のレガートはしばしば指変えが必要です。
重音のパートはとりだして練習しましょう。

自分ではレガートに弾いているつもりでも、実際には音が切れている事がしばしばあります。レガートはとくに注意して練習しましょう。

B）スタカート、デタッシュ（テヌート／マルカート）

1)エレクトーンは鍵（キー）を押している時間によって音の長さが自由に変えられます。ですからいろいろな程度のスタカート、デタッシュができます。

2)左手のリズム伴奏の時にはとくに指定のない場合でも、スタカート、デタッシュで奏します。一般的にリズミックな感じの曲では短かめに、またゆっくりとした曲では長めの方が効果があります。実際にはいろいろな長さで演奏してみて、メロディパートに合う長さで演奏するようにしましょう。

3)メロディパートは指定のある時に弾きます。

手の形を正しく、鍵盤の底にとどくようにしっかり弾くくせをつけましょう。

3. エクスプレッションペダルの使い方

A）フレーズのエクスプレッション

1)自然な音楽を創るために、フレーズの入りは弱めに、またフレーズの終りも少し弱めにすると美しく聞えます。

2)フレーズのエクスプレッションは急激な操作ではなく、少しづつゆっくり操作します。

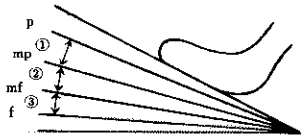
3)メロディーパートは歌うような軽やかな表情をつけます。（メロディーをよく聞きながら表情をつけます）

4)Crescの時は少しづつ操作しやすいのですが、dimの時に早くなりやすいので気をつけましょう。

B）曲全体のエクスプレッション

1)楽曲はいくつかのフレーズが集って1曲を構成しています。ですから曲全体にfのフレーズは強めに、pのフレーズは弱めに、つまり全体のバランスを大切にしましょう。

第一フレーズ	第二フレーズ	第三フレーズ	第四フレーズ
P < >	mp < >	mf < f >	mp >
①	②	③	②



2)無理なくエクスプレッションペダル全体を有効に使いましょう。

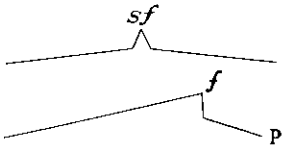
波がうつような不自然な音は、みな右足の操作がスムーズでないことが原因です。聞いていて自然な感じの美しい音楽を創りましょう。

C）アクセント

1)急激にふみ込みそしてもどすとアクセントになります。

○ 瞬間的なもの

○ f から急に弱くなるアクセント



2)いつもアクセントをつけると全体の感じはアクセントになりません。
3)もどす時はすばやく操作します。
4)始めはアクセントをつけず、フレーズのエクスプレッションが十分身についてから操作するようにしましょう。

エクスプレッションペダルの全体的な注意

1)ふみ込む時はやさしいのですが、もどす時が急激になりやすいものです。

2)1拍、1小節ごとに、波をうったような表情にならないように注意しましょう。

3)Crescendoの時、強拍の所が一番強いのが自然です

4)曲全体の表情は始めのうちは意識的につけて、なれてきたら、無意識に自然な表情がつけられるようにして下さい。

5)同じ曲でもテンポによっては表情のつけ方が少々違ってくる場合があります。

6)リズミックな曲は少さなアクセントがあってもよい感じのものになります。

楽しい曲は心から楽しそうに、悲しい曲は静かな感じに、だれでもがその曲想を自由に表現できること、しかもちょっとした操作でそれのできるのが、このエレクトーンの大きな特長です。

4．ペダル鍵盤の奏法

1)座る位置をいつも同じにしましょう。

1オクターブ以上鍵（キー）がある時に、からだの中心の音よりも4度下の音が（即ちfに座ると$\dot{c}$）、左足の真下の音になります。しかし体の大小により多少異なりますが、このエレクトーンの場合足鍵盤がオクターブですので、$\dot{c}$か$\dot{d}$の所にからだの中心を持ってきますと、左足はGかAの所にくるはずです。ですから常に同じ所に座ることによって足鍵盤を見ないでも、いつも同じ音を正確に弾くことができます。その音が足鍵盤の演奏の中心の音になるわけです。

2)下脚が時計の振子のようにヒザを中心にらくに左、右に動くのが（音の高低)、上手な弾き方です。

3)演奏は足首でします。ヒザを上下すると足が疲れやすく、又、早いテンポの曲の演奏が困難になります。踏む位置は白鍵の真中より少し奥を踏み、足の指のつけ根が白鍵の真中位になるようにします。

4)演奏中足鍵盤を見ますと、姿勢がくずれ、ヒザを開いてのぞき込むと足に不自然な力が入ります。いずれもよくない弾きかたです。

5)練習を始める前にペダル鍵盤だけのリズム練習、音階練習はペダル鍵盤の上達に大変有効です。

足鍵盤を弾く時、初めに悪いクセをつけますとなかなか直りにくいものです。ですから、初めから注意して自然でらくな正しい奏法を早くおぼえるようにしましょう。

足鍵盤奏法の一般的な注意

1)座る位置が前過ぎヒザが前に出たり、その逆になったりしがちです。

2)Gより上の音（A．B．C）を弾く時にカカトが内に入りヒザが外側を向くことがよくあります。注意しましょう。

3)下のC（Ç）を弾く時は、ヒザが内側を向き下脚に不自然な力が入りやすいので、これも注意します。

4)短かく切る時（スタカート、デタッシュ）必要以上につま先が上らないようにして下さい。

5)座る位置が不定ですと、鍵盤の位置がいつまでもおぼえられないので、結局上達が遅れてしまいます。

6)ヒザが上下するのは足首に力が入っているためです。もっと楽な気持で弾きましょう。

7)たたきつけるような演奏になる（足全体に力が入る）のも、まだ足の動かし方が不自然だからです。

8)ハイヒールをはいて演奏する時は、必要以上にカカトがあがりやすく、（ヒールは鍵盤にかからない）演奏はいっそうむづかしくなります。

9)恐れながら演奏すると、かえって音程がとりにくくなります。

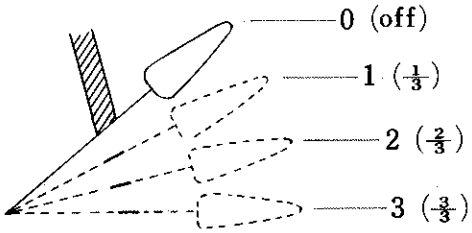
10)練習時にはペダル鍵盤の音量を少し大きめにしましょう。

足鍵盤は間違えずにらくに弾ければよいのです。足のどこかが痛いのは必ずどこかに不自然なところがあるからです。ちょっとした注意でらくに弾けます。
あとは練習です。恐れずに堂々と演奏しましょう。

記　譜　法

☆鍵盤が3段になっていますので、3段の楽譜を使います。とくに指定のない時は上段は右手で上鍵盤を、楽譜の2段目は左手で下鍵盤を、3段目は左足でペダル鍵盤を演奏します。

☆トーンレバーはクイックストップの位置（0，1，2，3）で示します。



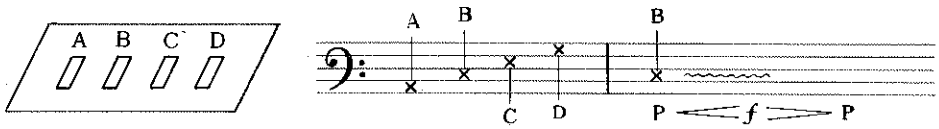
- 0はトーンレバーを上げた状態。
  この場合offで音は出ません。
- 1はトーンレバーを1段下げた状態。
- 2はトーンレバーを2段下げた状態。
- 3はトーンレバーを一番下に下した状態。

☆指定はそれぞれの五線の上に[　　]を置き、左から順にトーンレバーを入れる分量だけ記入します。
上鍵盤は5桁で、下鍵盤は3桁。ペダル鍵盤は2桁の数字で表わします。

☆曲の途中で音色を変える時には、変える所の上に新しいトーンレバーのセットの記号を書きます。この操作をするのに左右どちらの手を使うかは、編曲により違いますが、メロディーが不自然でないようにその時の都合のよい手でスムーズに入れ換えます。

☆
- ビブラートは音色指定の次にVib.3等と書きます。
- マンドリンの効果はM。offの時はM̶。
- サスティーンは上段の下にS…。offの時は…| 又はS̶。
- ペダルサスティーンは下段の下にP.S。offの時はP̶.S̶。
- バランサーは上鍵盤を強くする時 B.U.（まれにB.R.の譜もあります）
  下鍵盤を強くする時 B.L.

☆パーカッションレバーはPerc.3等と書き、パーカッションボタンは第一間A.第二間B.第三間C.第四間Dと二段目に書かれます。

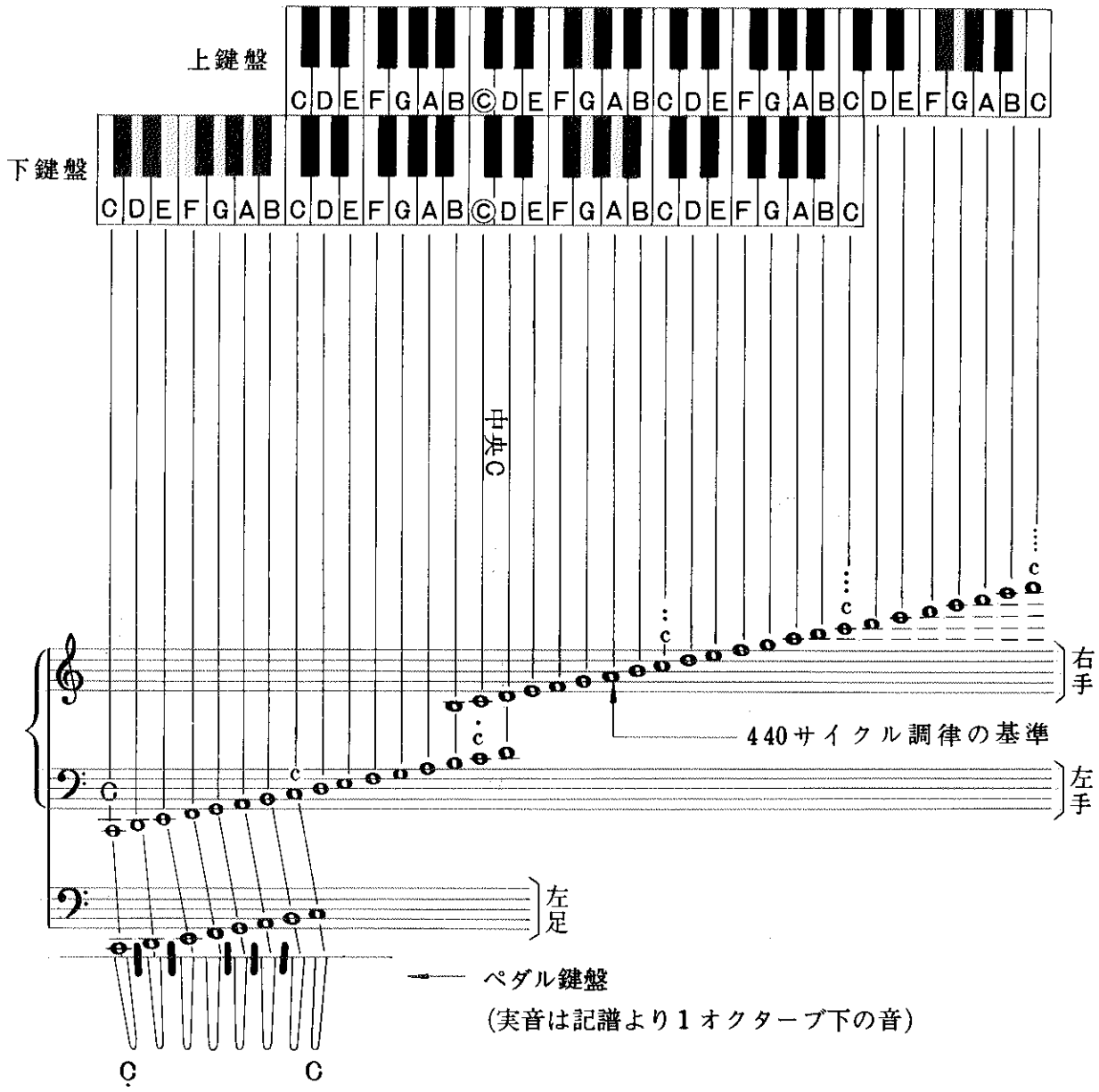


（波のエフェクト）

☆両手で上鍵盤を弾く時は U.M.〔
両手で下鍵盤を弾く時は L.M.〔

☆発想記号のうち、音量に関するもの（強弱記号）はペダル楽譜の上に書きます。

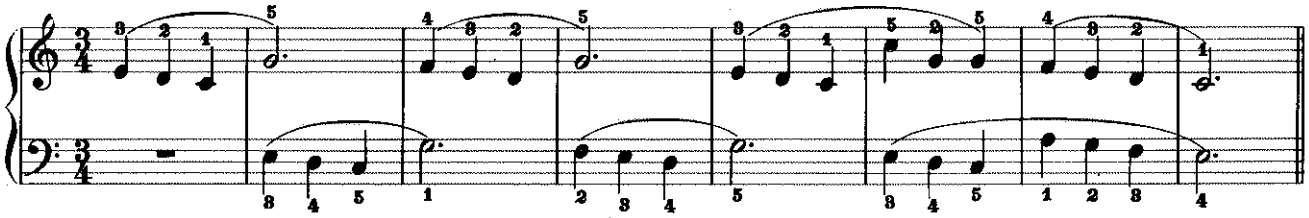
音　域　表


上鍵盤
下鍵盤
C D E F G A B C D E F G A B C D E F G A B C D E F G A B C D E F G A B C
C D E F G A B C D E F G A B C D E F G A B C D E F G A B C
中央C
右手
左手
左足
440サイクル調律の基準
ペダル鍵盤
(実音は記譜より1オクターブ下の音)

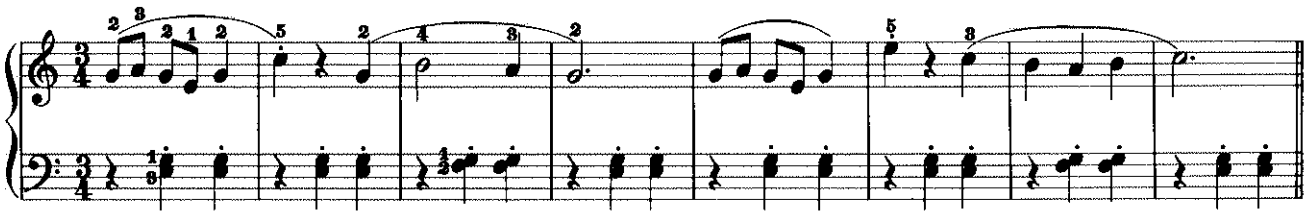
練　習　曲

☆ トーンレバーは自由に、
上下鍵盤のバランスに注意する。

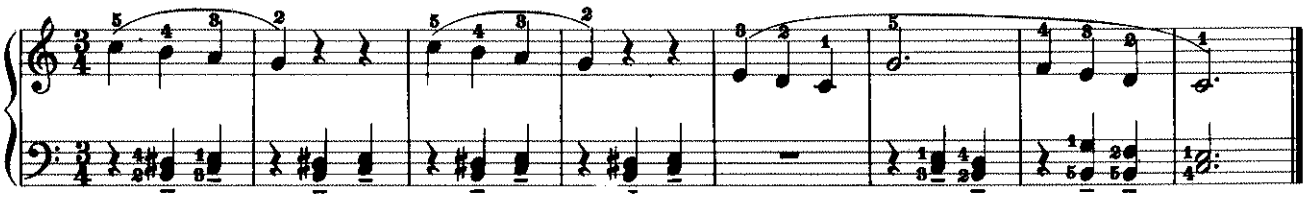
レガート



スタカート

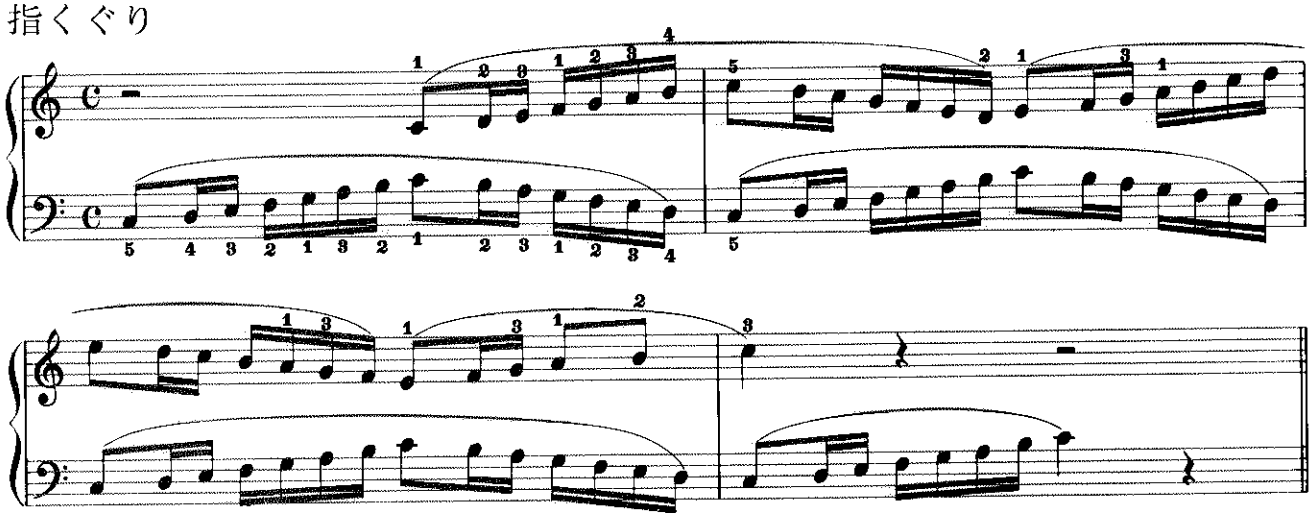


デタッシュ

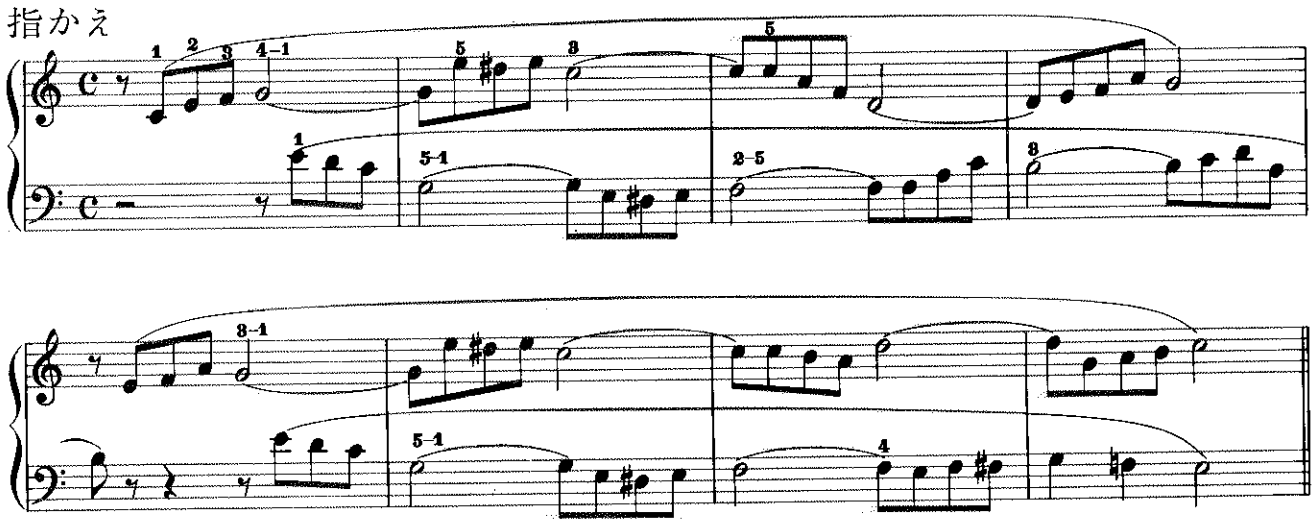


㊟ ①②③の練習が出来たら続けてひいてみて下さい。

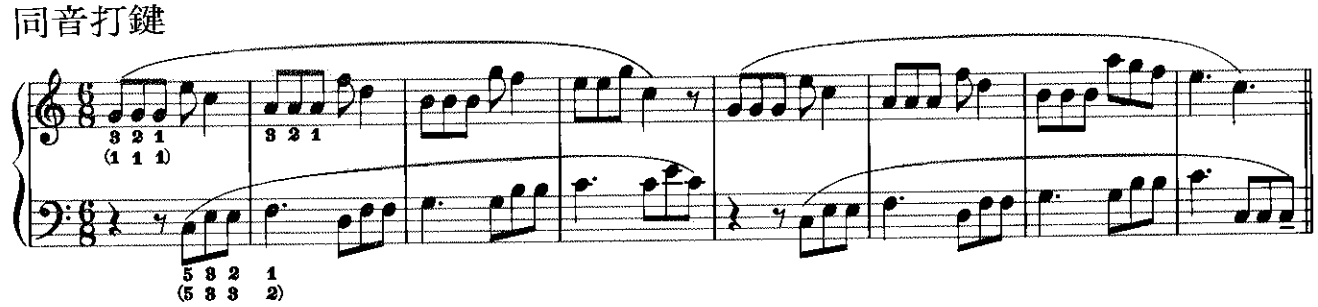
指くぐり



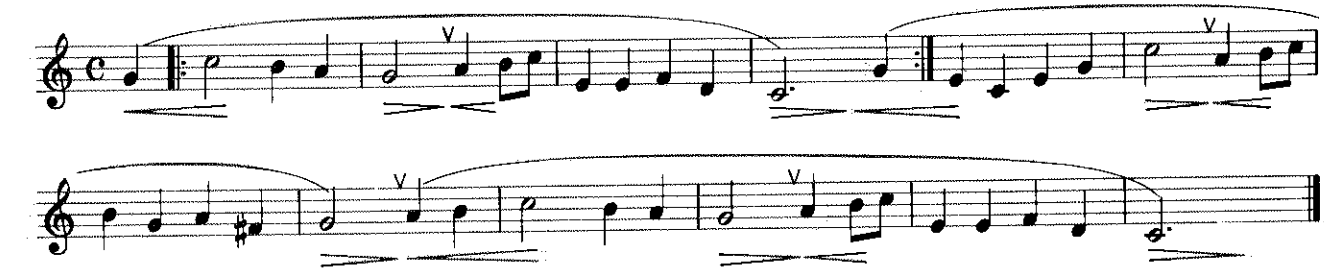
指かえ



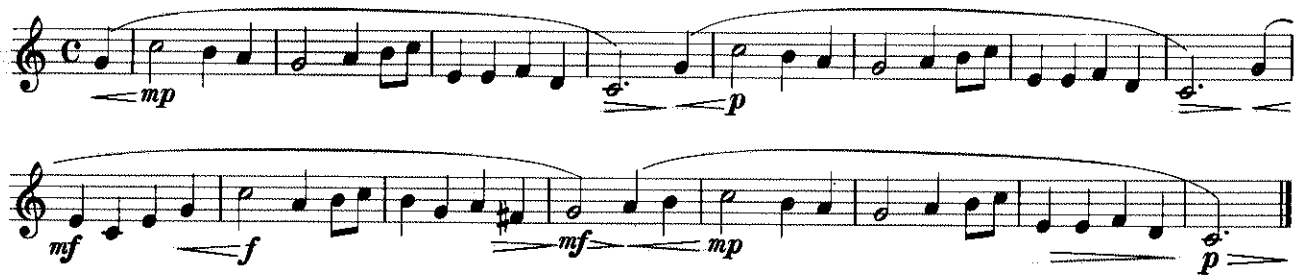
同音打鍵



フレーズのエクスプレッション



曲全体のエクスプレッション



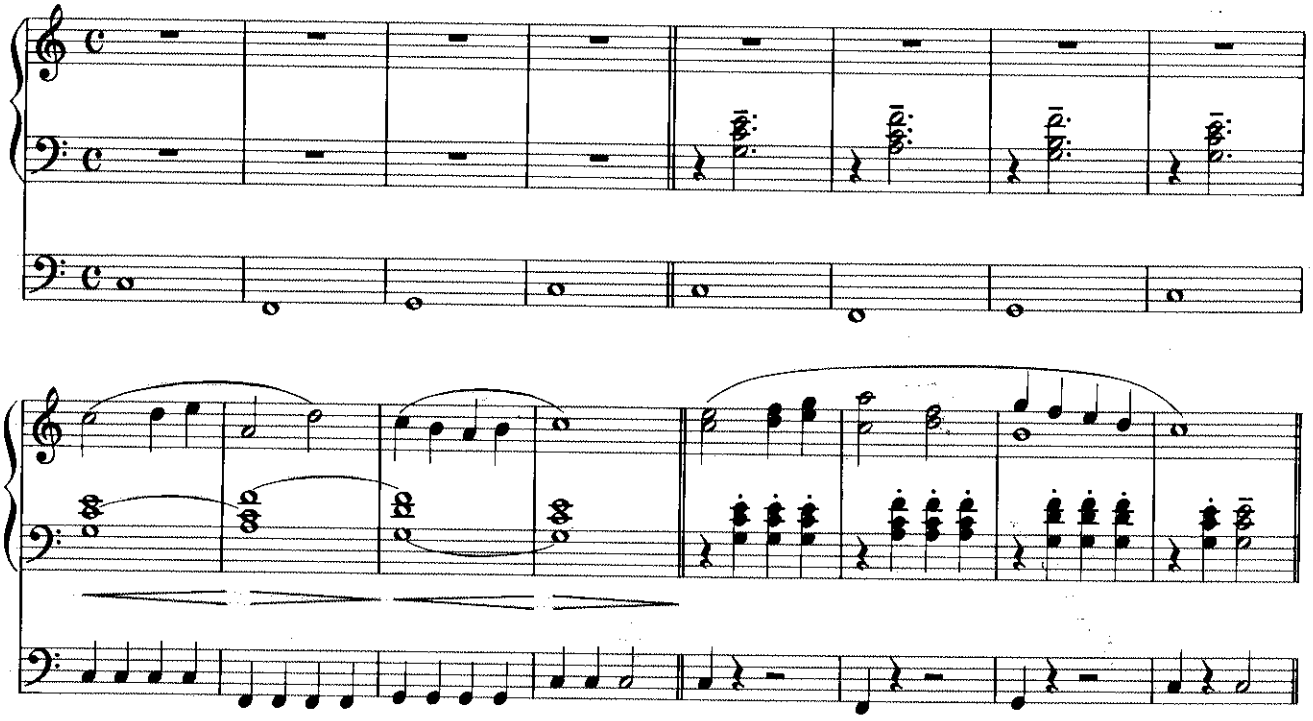
足鍵盤リズム

いろいろなテンポで練習。㊟ スタカート、レガートで練習。

音　階

㊟ スタカート、レガートで練習。

総合練習



エレクトーン上達の最短コース

ヤマハエレクトーン教室

ヤマハエレクトーン教室は楽譜を読めない人でも楽しく勉強できる教室です。

楽器に対する経験の有無、進歩の度合に応じて指導し、レッスン内容も受講者のすきな音楽を教材にしながら基本的なテクニックを覚え、その応用のできるシステムをとっています。

ぜひご入会下さい。

エレクトーンの楽譜（テキスト・曲集）

テキスト

• ニューコード・システム（基礎篇）	¥ 350
• ニューコード・システム（応用篇）	¥ 500
• エレクトーンエチュード全10巻 入門編～6集	¥ 200
7～9集	¥ 300
• エレクトーンのための実用和声学（2分冊）	¥ 200
• 基本的な正しいコード進行を知るためのエレクトーン曲集	¥ 150
• エレクトーンの使い方（D－1B用）	¥ 300

曲集

• 一段鍵盤のためのエレクトーン曲集（A－2用）	¥ 350
• 二段鍵盤のためのエレクトーン曲集（D－1B用）	¥ 400
• エレクトーンB－1曲集	¥ 300
• エレクトーンB－3曲集	¥ 350
• エレクトーンピーシズ（D－1B用）	¥ 350

エレクトーンピース

「椿姫前奏曲」ヴェルディ	¥ 60
「カバレリアルスティカーナ間奏曲」マスカーニ	¥ 60
「マドンナの宝石間奏曲」ウォルフ・フェラーリ	¥ 80
「鈴かけの径」灰田有紀彦	¥ 100
「五木の子守歌」熊本民謡	¥ 100

日本楽器製造株式会社

1964
発行者　金原善徳
発行所　日本楽器製造株式会社
印刷所　伸和印刷株式会社